

芥川龍之介
「お律と子等」草稿 寄託資料

「中央公論」1920(大正9)年10・11月号掲載。

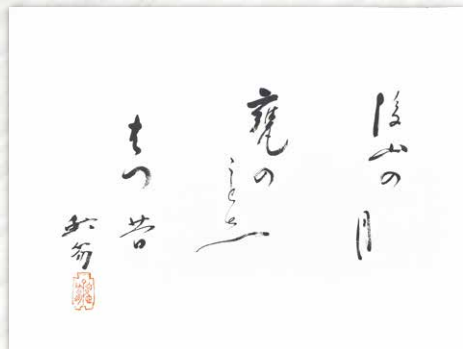


村岡花子
「わたしの愛読の作家
山本周五郎先生のこと」原稿

「現代少年文学」No.18(1967年6月)掲載。

飯田蛇笏
「後山の月聾のごしはつ昔」軸装

1946(昭和21)年の作、「はつ昔」を「初昔」として
『心像』所収。季語は「はつ昔」で季節は新年。



新収蔵品展

創作の 生まれるところ

観覧無料

New Acquisitions Exhibition

会期 2026年

1月31日[土] ▶ 3月22日[日]

休館日 月曜日(2月23日は開館)、2月12日[木]、24日[火]

2025年に新たに収蔵した資料より、
作家の原稿や手紙、書画などを展示します。

山本周五郎
「赤ひげ診療譚」第6回原稿

「オール読物」1958(昭和33)年9月号掲載。

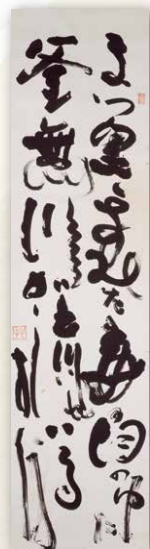


飯田 龍太	山崎 方代	山本 周五郎	村岡 花子	芥川 龍之介	飯田 蛇笏	樋口 一葉
----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	----------

ほか

山崎方代
「まつ黒くすみたる馬の目の中に
釜無川が流れる」軸装

「流れる」を「流れている」として「短歌」1975
(昭和50)年5月掲載、歌集『こおろぎ』収録。



飯田龍太
「ともどもに月日はるけ小春かな」軸装

1988(昭和63)年の作、句集『遅速』収録時は、「卒後
五十周年、同窓諸友の求めに」の詞書がある。





秋山秋紅蓼自画賛
「壺中天地ありこゝに一個の密柑を置く」軸装

冬の常設展 テーマ展示 **自由律の俳人・秋山秋紅蓼**

2025年12月2日(火)～2026年3月8日(日)

常設展では、季節ごとの展示替えの際、テーマ展示を設けています。今冬は、没後60年を迎える山梨県出身の俳人秋山秋紅蓼(1885～1966)です。五・七・五の定型ではない自由律俳句を主張し、「山の桜が谷へちりいまでも古里である」などの作品を残した秋紅蓼の俳句世界を紹介します。



閲覧室資料紹介 没後 50 年 檀一雄の世界

2026年1月2日(金)～3月22日(日) 1階閲覧室 入場無料

都留市生まれの小説家檀一雄は、2026年に没後50年を迎えます。節目の年にあたり、『リッツ・その愛』『リッツ・その死』『火宅の人』などの小説をはじめ、エッセイ、詩、俳句、短歌など、檀一雄の多彩な作品を、収蔵する図書・雑誌から展示して紹介します。展示資料は手に取ってご覧になれます。

Exhibition Schedule 2026年の展覧会

企画展

日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家 かがくいひろしの世界展

2026年7月4日(土)～9月23日(水・祝)

累計発行部数1,000万部を突破した絵本「だるまさん」シリーズの作者かがくいひろしは、特別支援学校の教員でした。障がいのある子どもたちと向き合い、ともに過ごした経験がのちの絵本づくりへと繋がり、50歳で絵本作家としてデビューしました。本展では、原画やアニメーションで絵本の世界を楽しんでいただくとともに、かがくいひろしがアイデアを書き留めたノート、教員時代に手がけた教材などから創作の原点に迫ります。



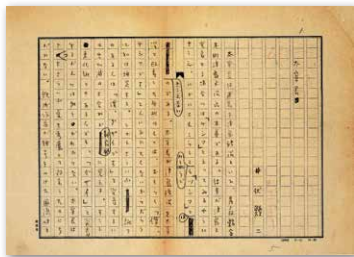
©Hiroshi Kagakui

特設展 常設展観覧料でご覧いただけます

昭和文学をふり返る — 収蔵資料より

2026年4月25日(土)～6月14日(日)

2026年は、昭和元年から100年を数えます。戦争をはさんで大きな時代の変化とともに生み出された昭和の文学を、芥川龍之介、井伏鱒二、太宰治、檀一雄、武田孝淳、山本周五郎などの収蔵資料を中心にふり返ります。



井伏鱒二「太宰君」原稿
「文藝雜誌」1936(昭和11)年4月掲載

模型と写真で再現する樋口一葉の世界(仮題)

2026年10月10日(土)~12月13日(日)

槍細工師三浦宏氏が制作した一葉の小説「にぎりえ」の舞台となる銘酒屋・菊の井
 や終の棲家となった丸山福山町の家などの模型と、模型の内部や外観を針穴写真
 家田所美恵子氏が撮影したモノクロ写真を展示。一葉の作品世界と明治の暮らし
 の息づかいを感じてください。



左:三浦宏 作 銘酒屋・菊の井
撮影 石崎幸治

右:田所美恵子が撮影した菊の井の内部

【利用のご案内】

- 開館時間 展示室 午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで)
 閲覧室 午前9時～午後7時(土日・祝日は午後6時まで)

- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
祝日の翌日(日曜日の場合は開館)
年末年始、その他臨時開館・休館あり

【交通のご案内】

- 電車・バス
- JR中央本線 甲府駅より
- ・JR甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より、03・04系統 竜王駅経由敷島営業所、30系統 貢川団地、35系統 大草経由韮崎駅、39系統 御勤使各行各きのバスで約15分、「山梨県立美術館」下車。(340円)
- ※当館ホームページの「お知らせ」からもバスの時刻表をご覧ください。
- ・タクシーで約15分
- 車
- 中央自動車道
- ・甲府昭和インターチェンジより約10分
 - ・双葉スマートインターチェンジより約10分 ※ETC専用
- 中部横断自動車道
- ・白根インターチェンジより約20分



X(旧Twitter)
@bungakukan_vmns



Instagram
@yamanashi art literature park

山梨県立文学館
ホームページ

そのことばのつづきへ

 山梨県立文学館
Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL:055-235-8080 FAX:055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

※県内宿泊者割引は団体割引料金を適用

※次の方は無料

- ・高校生以下の児童・生徒(高校生は学生証を提示)
- ・65歳以上(年齢が分かるものを提示)
- ・障害者とその介護者(障害者手帳を提示)

※企画展は別途、観覧料をいただきます。